

ブリッツ連棟住宅の緑の部屋の利用実態と居住者意識

Actual condition and resident awareness of green rooms in Britz terraced housing complex in Berlin, Germany

○小木曾裕¹, 山崎晋¹Yutaka Kogiso¹, Shin Yamazaki¹

Abstract: This study aims to clarify the actual situation of resident use and resident consciousness of resident of green room of terraced housing complex in Britz in order to obtain knowledge of the better way of the garden of consecutive houses of apartment building. As a result, about 80% of respondents understand design intent of the garden that incorporated the concept of the green room from the real life feeling. The tendency is higher for people who often use the garden or for young people.

1. はじめに

2008年ユネスコ世界文化遺産に指定されたドイツの建築家のブルーノ・タウト（以下タウト,1880～1938）が中心となり設計した, 1925～31年に建設のブリッツの馬蹄形住宅を中心とした大規模住宅団地がある。その中で馬蹄形集合住宅の周辺に配置された連棟住宅の配置と庭の先行研究の中で, 住居に面したプライベートな庭を「緑の部屋」と呼びその利用に対しても部屋の延長線と評価している傾向があった^{[1][2]}。

そこで, 本研究は今後の集合住宅の連棟住宅の庭のより良いあり方の知見を得るため, 連棟住宅の緑の部屋の居住者の利用実態と居住者意識を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

ブリッツ大規模住宅団地(Großsiedlung Britz)は, 馬蹄形住宅が扇の要で, それを中心に連棟住宅と3階建て住宅等が配置されているが, その馬蹄形住宅の周辺建物の一連の配置設計思想を持った設計の1・2期6期を研究対象エリアとした。2014・15・18年に連棟住宅等の建物と屋外空間等の現地調査をした(図-1)。更にタウトの緑の部屋等の設計思想を文献とヒアリングにて整理・把握し, 居住者にその内容を確認するためにアンケートとヒアリングを実施した。

3. 結果と考察

(1) 属性等

回収率は11%の100戸, 年齢構成40・50・60歳は全

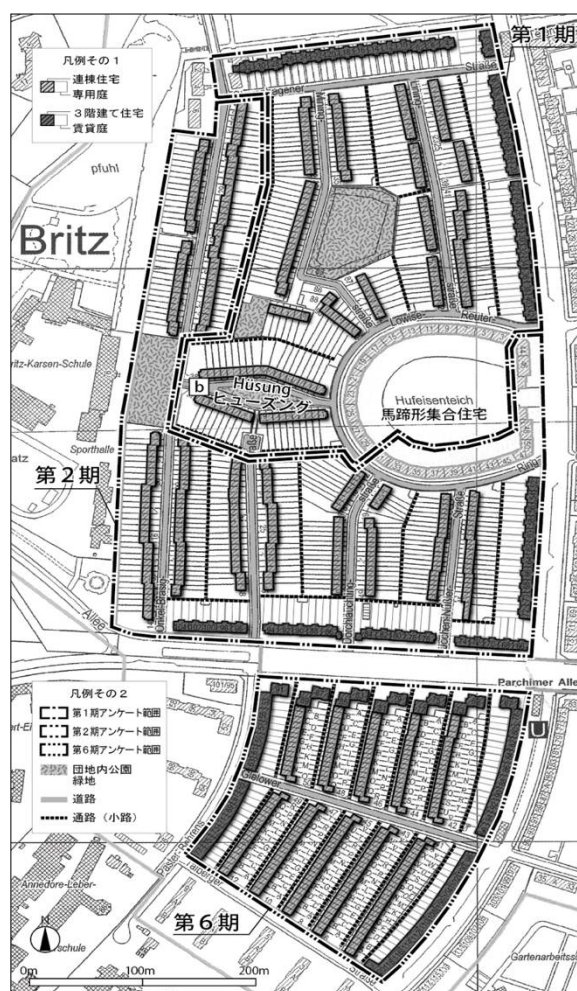


図 - 1 ブリッツ連棟住宅と屋外・緑の関係図

て20%以上で, 20・30・70・80代以上が約10%以下で, 全世代意見を集約できた。入居年は世界遺産登録後の居住者が一番多く約40%で1971年から調査時点まで

1 : 日大理工・教員・まち

が 95% を占めた。

(2) 緑の部屋の設計意図の居住者意識

景観を住居と統合する為にタウトは屋外居住空間概念を取り入れた。居住価値をより良いものにする為に設計されており、その一つが居住空間に取り入れられた緑、住居に面して設置されたプライベートな庭でありそれらは「緑の部屋」(図 - 1・2) と呼ばれた。この設計意図に対する居住者の感じ方を確認した。その結果、最も多かったのが「非常にそう感じると思う」で 53% であり、「14 年前から緑の部屋という居住空間をどの季節にも高く評価」、「冬には窓からの眺め夏は庭の暮らしを通しこの繋がりを楽しむ」、「庭を春から秋は常に小さな追加の部屋に利用」、「そう感じると思う」は 32% で「庭へキッチンから出られ収穫物を運び

込めテラスの食事時のテーブルセッティングが楽」等という回答があり、設計意図をそうに感じる居住者は合計 85% と高かった (図 - 3)。

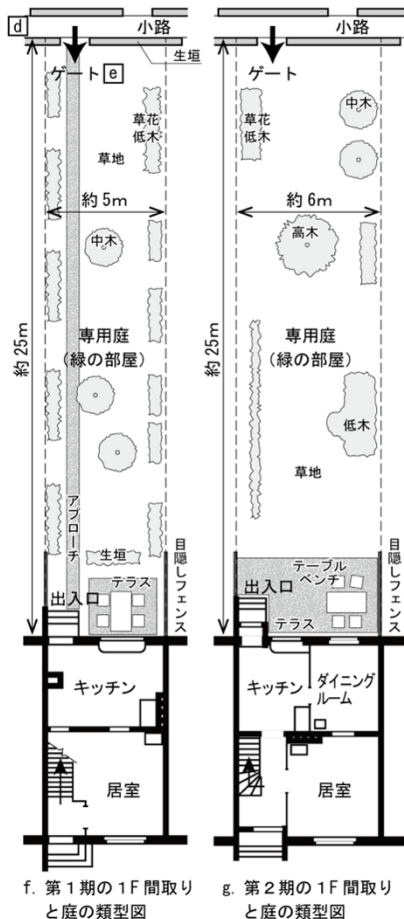


図-2 連棟住宅の間取りと庭の類型図

おり、建物と庭の繋がりがやそれが互いに溶け合うことや、緑のリビングのようであること、部屋を追加できるが本当の部屋にもなること、セッティングの簡易なこと等の回答が得られ、緑の部屋が生活の中でそのよさが実感されていることがうかがえる。

(3) 緑の部屋の利用時間と利用実態

庭の利用時間について確認した。その結果、最も長く利用しているのは「夏」で平均 9 時~22 時と長く、朝 6 時からの人や 24 時まで利用している人もいることがわかった。ベルリンの日没は 6 月 25 日で 21 時 33 分 (東京 6 月 30 日 19 時) と遅く日没後も薄明かりがある。更にベルリンは湿度が低く最も高い 8 月でも 5% 以下 (東京 8 月 85%) で、気温も 8 月で 25 度 (日本 30 度) と過ごしやすい事も関係していると考えられる。「春・秋」で平均 10 時~18 時と長く、「春・秋」は朝 6・7 時から利用もあり、21・22 時まで利用している人もいて、朝の 8 時から 20 時まで利用する人がいることがわかった。緑の部屋の価値はこの利用時間の長さと考えられる。

(4) 緑の部屋と居住者意識の各設間の関係性

連棟住宅の緑の部屋、間取りとキッチンの庭と前庭の利用頻度及び外出頻度・年齢及び居住年の各設間の関係性に関してカイ二乗検定を行った。その結果、居住者はタウトの連棟住宅に関する緑の部屋の設計意図を住まいながら実感する人は、間取りのキッチンが庭に面している良さを実感する傾向が見られた。この傾向は年齢が若い人程感じ、居住年が短い人程感じる傾向があることがわかった。間取りのキッチンが前庭に面してある良さを実感している人は、庭の利用頻度が高く、外出の頻度も高い。更にその傾向は年齢が若い人程、居住年が短い人程、傾向が高いことがわかった。

4. まとめ

タウトが「緑の部屋」の概念を取り入れたブリッツの連棟住宅の建物配置と庭の関係性に対して、居住者は研究・勉強により知るとともに、現状の生活実感からその設計意図を約 8 割の人が感じていることがわかった。今後は部屋の向きと生活実感について研究を進めたい。

引用文献

[1] 小木曾裕 (2014) ブルーノ・タウトによる馬蹄形集合住宅の配置と中庭の設計意図に対する居住者意識, 日本造園学会, ランドスケープ研究, 77, (5), 685-688
 [2] 小木曾裕 (2018) ブルーノ・タウトによるブリッツ連棟住宅の屋外空間の設計意図に対する居住者意識, 日本造園学会, ランドスケープ研究, 81, (5), 669-674

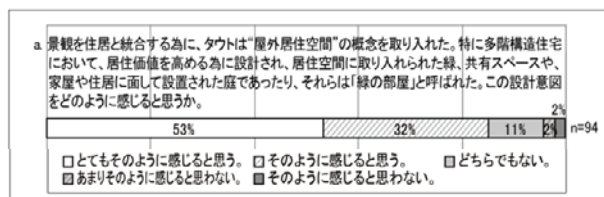


図-3 連棟住宅の緑の部屋の設計意図の意識